

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 032	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 イチゴにおける展着剤の効果的な使用方法について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 展着剤の使用方法によって、農薬の効果が異なることが言われています。特にアジュバントの使い方についてはいくつかの知見があるものの、最近のデータでは、アジュバントを加用することによって、初期の農薬の効果は高まるものの、残効の点からは効果が低下する事例も提唱されています。これは作物の濡れやすさや農薬自体の浸透性などが大きく影響しているとは思いますが、イチゴに関してはデータが少ない状況です。キュウリに関して環境部等の成績は拝見しましたが、イチゴに関しても、一般的な殺虫剤・殺菌剤と展着剤の組み合わせによる初期の農薬の効果および残効について情報の提供をお願いします。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術所 <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備 考	

※

回答機関名	農業技術センター	担当部所	農業環境研究部
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	展着剤の防除効果に対する影響について、様々な作物で基礎的な知見が不足しているのはご指摘のとおりだと思います。これまでの知見から、展着剤加用の効果は、作物－病害虫－農薬－展着剤の組み合わせによって異なると考えられます。要望の、展着剤加用の防除効果に対する影響あるいは残効に対する影響を明らかにするためには、かなりの数の試験区を設定する必要性があり、現状では実施は困難と考えます。イチゴに関しては、断片的になることは否めませんが、ハダニ類防除に対する奈良県農業総合センターの試験データ、うどんこ病に対する愛媛農試（現愛媛農林水産研究所）の試験データがありますので情報提供をさせていただきます。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備 考			